
嫌いな人

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嫌いな人

【Nコード】

N6976J

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

私の隣の席にいる人、嫌いなもの。

意地悪な人はだあれ。

私の席の隣の人。

いつもいつも私の眼鏡を

「掛けさせて」

って言うの。私は視力が0.01。だから、眼鏡をかけてるわ。小学校3年から。

今はおしゃれな眼鏡も売っているけど、これが慣れてるから使いやすいの。

この中学校には小学校からの友達も来てるけど、話の合う子は受験して行っちゃった。もうすぐ3年生になるけど、勉強は嫌い。

眼鏡をかけると優秀に見えるって、隣の映子は言うけど。私がごくごく普通なことは知ってるくせに。

そんな映子が叱られた。学習ノートが出てないって。

「折角1週間かけて調べたのに、誰が盗んだの？」

なんて物騒なことを言うから、芝先生に

「すぐそういうことを言うもんじゃない！」

って。そうしたら、悔しそうに机に突っ伏して泣き始めた。もうこういう人は苦手。泣けば済むと思ってる。そのうちに怒りの矛先が私に向いてきた。

「吉野さんでしょう。いつも来るの早いし」

「…」

あまりのことに言葉が出ない。ふと、大きく息を吸ってみる。

「私があなたのノートを取ってなんの得があるの！ 第一、あんな下手な字は読めないわ」

そう、映子は悪筆。私は勉強は普通だけど、硬筆、毛筆は2段なの。

思わず拍手が起きる。映子もびっくり。

「そんなこと言われることは初めてだわ」

そう言って大笑いを始めた映子。

「えっ？」

不思議な展開に驚きながらも、映子って悪くないかもしれないって思えてきた。芝先生はすまなそうに

「すまん、二人とも。ここに落ちてた、田村のノート。吉野もある」

二人からだけでなく、クラス全員から冷たい視線を浴びた芝先生は、その日は家庭学習を無しにした。

「当然よ」

二人で同時につぶやいた。

「眼鏡貸して」

「なんで？」

「あんたさあ、掛けないほうが美人だって。見てみなよ、ほら」

映子に渡された鏡。

「でも、見えないのよ。ぼけて」

映子は

「なによ、それ」

って笑う。私も思わず笑っちゃう。そうなんだー。

「あんた嫌いーい」

「私も嫌いーい」

帰りに一緒にマックへ行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6976j/>

嫌いな人

2010年10月12日00時54分発行